

令和３年度高岡市公営企業会計決算及び基金運用状況の審査意見

第１ 審査の対象

１ 公営企業会計

令和３年度 高岡市水道事業会計決算

令和３年度 高岡市工業用水道事業会計決算

令和３年度 高岡市下水道事業会計決算

令和３年度 高岡市高岡市民病院事業会計決算

上記各事業会計決算に係る証書類、事業報告書及び政令で定めるその他の書類

２ 基金の運用状況

令和３年度 高岡市水洗便所改造資金貸付基金

上記基金の運用状況に関する調書

第２ 審査の期間

令和４年５月３１日から令和４年７月２５日まで

第３ 審査の方法

審査に当たっては、各事業会計の決算報告書及び附属書類が、関係法令に準拠して作成され、計数が正確であり、経営成績及び財政状態を適正に表示しているか、予算執行及び会計処理が適正であるかなどに主眼を置き、関係書類の照合確認を行うとともに、関係職員から決算についての説明を聴取するなどの方法により実施した。

また、基金の運用状況を示す書類の計数についても関係諸帳簿と照合した。

第４ 審査の結果

審査に付された各事業会計の決算報告書及び附属書類は、いずれも関係法令の規定に準拠して作成され、その計数は関係書類と符合し正確であり、経営成績及び財政状態を適正に表示しており、予算執行及び会計処理は適正であると認められた。

また、基金の計数は正確であり、設置目的に従い適正に運用されていると認められた。

なお、各事業会計別の予算執行状況及び財政状態並びに基金の運用状況に関する資料は、業務状況等のとおりである。

第５ 審査の意見

各事業会計についての審査意見は、次のとおりである。

【水道事業会計】

令和３年度の業務状況は、給水人口が 151,057 人で、前年度に比べ 1,549 人(△1.0%)、給水区域内人口が 166,630 人で、前年度に比べ 1,754 人(△1.0%)それぞれ減少しており、普及率は 90.7%で、前年度に比べ 0.1 ポイント上昇している。

配水状況は、総配水量が 16,052,817 m³で、前年度に比べ 499,760 m³ (△3.0%)、有収水量が 14,665,938 m³で、前年度に比べ 172,821 m³ (△1.2%) それぞれ減少している。

経営状況は、総収益 3,350,064 千円に対し、総費用は 2,714,307 千円で、635,757 千円の当年度純利益が生じ、前年度に比べ 57,506 千円(9.9%)の増益となっている。

これは主に、収益面で退職給付引当金戻入益及び給水収益が増加したことに加え、費用面で受水費及び人件費が減少したことによるものである。

また、有収水量 1 m³当たりの供給単価は 188 円 62 銭で、前年度に比べ 3 円 57 銭増加、給水原価は 160 円 84 銭で、前年度に比べ 1 円 76 銭減少しており、1 m³当たり 27 円 78 銭の利益が生じている。

一方、財政状況は、前年度に比べ資産は 148,103 千円(0.5%)増加、負債は 525,887 千円(△3.7%)減少、資本は 673,990 千円(4.4%)増加しており、資産合計及び負債・資本合計は 29,835,380 千円となっている。

当年度は、水道アセットマネジメント計画に基づき基幹管路である庄川幹線更新事業をはじめ、老朽配水管や鉛給水管を耐震性に優れた管路に順次更新するとともに、能町ポンプ場建屋外壁・内壁改修や令和４年度から着手する国吉配水場基幹施設整備事業の大規模改修に向けて国吉配水場送配水管耐震化詳細設計業務委託を行うなど、安全で安心な水道水の安定供給と地震などの災害に強い水道施設を整備された。また、これまでの料金徴収業務委託に管路点検調査関連業務等を加えた包括的業務委託を実施したことで民間活力による漏水調査が進み、料金収入につながらない無効水量が減少したことが評価できる。

今後の水道事業については、給水人口の減少や節水型社会への進展などから、収益の根幹である給水収益の増収は期待できず、また、老朽施設の更新、耐震化への対応が求められることから、厳しい経営状況が続くものと考えられる。

これらを踏まえ、令和３年度において見直しされた「高岡市上下水道ビジョン」に掲げる「安全」、「強靱」、「持続」の３つの基本方針に基づき各施策事業を推進され、管理経費の節減等により、引き続き、効率的で効果的な事業運営を進め、経営基盤の強化に努められたい。

【工業用水道事業会計】

令和3年度の業務状況は、供給先3社に、1 m³当たり4円30銭の契約単価で工業用水を供給している。

供給水量は5,730,500 m³で、前年度に比べ561,200 m³(△8.9%)減少している。

経営状況は、総収益26,931千円に対し、総費用は32,230千円で、5,299千円の当年度純損失が生じているものの、前年度に比べ930千円(14.9%)の増益となっている。

これは主に、年間供給水量の減量に伴い、動力費が減少したことによるものである。

また、有収水量1 m³当たりの供給単価は4円30銭で、前年度と同額、給水原価は5円31銭で、前年度に比べ1銭減少しており、1 m³当たり1円1銭の損失が生じている。

一方、財政状況は、前年度に比べ資産は8,344千円(△1.4%)、負債は3,045千円(△3.9%)、資本は5,299千円(△1.0%)それぞれ減少しており、資産合計及び負債・資本合計は584,892千円となっている。

今後の工業用水道事業については、令和3年度において見直しされた「高岡市上下水道ビジョン」に基づき、計画的な施設の維持管理・更新を進めていくために、引き続き、効率的で効果的な事業運営に努められたい。

【下水道事業会計】

令和３年度の業務状況は、行政区域内人口が 166,641 人で、前年度に比べ 1,749 人(△1.0%)、処理区域内人口が 158,086 人で、前年度に比べ 1,376 人(△0.9%)それぞれ減少している一方で、普及率は 94.9%で、前年度に比べ 0.2 ポイント上昇している。処理区域面積は、4,521.7ha で前年度に比べ 19.4ha (0.4%)増加している。水洗化率は 95.3%で、前年度に比べ 0.1 ポイント上昇している。

経営状況は、総収益 5,722,260 千円に対し、総費用は 5,064,283 千円で、657,977 千円の当年度純利益が生じ、前年度に比べ 107,549 千円 (19.5%) の増益となっている。

これは主に、収益面では下水道使用料が減少したものの、費用面で支払利息が減少したことによるものである。

また、有収水量 1 m³当たりの使用料単価は 193 円 47 銭で、前年度に比べ 73 銭増加、汚水処理原価は 155 円 51 銭で、前年度に比べ 5 円 26 銭減少しており、1 m³当たり 37 円 96 銭の利益が生じている。

一方、財政状況は、前年度に比べ資産は 1,398,197 千円 (△1.6%) 減少、負債は 2,604,875 千円 (△3.3%) 減少、資本は 1,206,678 千円 (17.9%) 増加しており、資産合計及び負債・資本合計は 83,653,588 千円となっている。

当年度は、上下水道事業に関連する民間の技術力を活かし、将来にわたる技術水準の確保と効率的な業務の遂行に努めるため、下水道施設の維持管理では包括的維持管理業務委託を引き続き実施されたことに加え、これまでの料金徴収業務委託に排水工事関連業務を加えた包括的業務委託を実施された。また、下水道整備事業では、公共下水道及び特定環境保全公共下水道整備に取り組み未普及地域の解消を図るなか、下水道ストックマネジメント計画に基づき、市中心部における老朽管路の更新事業を進めるとともに、浸水対策として、水害ハザードマップの作成や蓮花寺東雨水枝線整備事業の着手、基幹施設整備として、四屋浄化センターの最終沈殿池電気・ポンプ設備改築工事や伏木汚水中継ポンプ場の破砕機改築工事などを実施されたことが評価できる。

下水道事業の収益の根幹である下水道使用料は、今後も人口減少に伴う水洗化人口の減少に加え、節水型社会の進展により増収は期待できない。一方、既存施設の更新や維持管理、大規模災害への対応が求められることに加え、企業債残高は減少しているものの依然として多額の元利償還金の支払も必要であることから、今後も厳しい経営状況が続くものと考えられる。

これらを踏まえ、令和３年度において見直しされた「高岡市上下水道ビジョン」に基づき、引き続き、企業債残高の抑制と支払利息の軽減などを図るとともに、生活環境の向上と公共用水域の水質保全のため、計画的に未普及地区整備を進め、下水道未接続世帯に対しては更なる水洗化促進に取り組みながら、事業運営の効率化を図り経営の健全化に努められたい。

【高岡市民病院事業会計】

令和３年度の業務状況は、入院・外来延患者数が 274,821 人で、１日平均入院患者数は 269.5 人、１日平均外来患者数は 729.2 人で、前年度に比べ入院延患者数は 4,045 人(4.3%)、外来延患者数は 5,615 人(3.3%)それぞれ増加している。病床利用率は 67.2%で、前年度に比べ 2.8 ポイント上昇している。

経営状況は、総収益 10,114,826 千円に対し、総費用は 8,869,781 千円となっており、1,245,045 千円の当年度純利益が生じ、前年度に比べ 621,056 千円(99.5%)の増益となっている。

これは主に、入院外来ともに患者数が増えたことに加え、一人一日当たりの入院単価が増加したことによるものである。

医業収益のうち入院収益は、３階中病棟を集中治療室病棟に統合しハイケアユニット化したこと等により、一人一日当たりの診療単価が増加したほか、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れによる入院患者数の増加により、増収となっている。その他医業収益は、新型コロナウイルスワクチンの接種を行ったことにより、増収となっている。

医業費用は、患者数の増加に伴う材料費の増加、燃料費等の高騰や新型コロナウイルス患者への対応等により経費が増加したものの、資産減耗費及び減価償却費等が減少したことにより減少となっている。

一方、財政状況は、前年度に比べ資産は 158,188 千円（1.4%）増加、負債は 1,175,618 千円（△11.6%）減少、資本は 1,333,806 千円（103.9%）増加しており、資産合計及び負債・資本合計は 11,612,746 千円となっている。

当年度は、新型コロナウイルス第５波の感染拡大時に高岡医療圏においても感染者が急増した際、公的病院をはじめとした近隣医療機関等との連携・協力を行うとともに、専用病床を拡大し感染症患者を受け入れた。さらには、新型コロナウイルスワクチンの接種にも積極的に協力し、高岡市の接種率向上に貢献した。また、高岡医療圏内の急性期医療や救急医療、がん医療を担い、中核的病院としての役割を果たすべく、感染防止対策を徹底しながら、継続的に高度な医療を提供されたことが評価できる。

今後の病院事業については、令和３年度から開始された「第Ⅴ期中期経営計画」において、「急性期病院としての機能特化」、「政策的医療を担う役割の堅持」、「地域連携の更なる推進による地域包括ケアシステム構築の牽引」を目指し、その実現に向けて医療の質の向上、チーム医療の推進等に取り組まれ、引き続き地域の住民や医療機関に信頼され、選ばれる病院となるよう努められたい。

また、新型コロナウイルス感染症がさらに拡大するなか、高岡市民病院においては、献身的に従事されている医療関係者に対し深く感謝申し上げる。今後も、感染症指定医療機関として万全の受入体制で対応されることを望むものである。

